






事業の背景	当市では今後、更なる人口減少や少子高齢化の進行により、地域の活力が低下していくことが懸念されています。 これに対処するため、地域内外問わず、地域に関わる一人ひとりが地域の担い手として参画し、地域資源を活用しながら、地域の特性に応じたまちづくりを推進する必要があります。 そこで、県外在住者が当市の魅力あるコンテンツを体験する機会を創出することで、関係人口や将来的な移住者を増やす仕組みのほか、若者の地域への関心を高めることで将来的に弘前へ目を向け、弘前へ留まる若者や将来的にＵターン移住する若者を増やす仕組み、地域に関わる人が居場所と役割を持ってつながり、生涯を通じて健康でアクティブに活躍する仕組みを構築し、地域の活性化を図るものです。				
地域再生計画の期間	令和４年度～令和８年度【５ヵ年】		連携自治体	なし	
事業概要、決算額、成果【R6年度分】	関係人口の創出	● <u>地方に関心がある県外在住の若者が弘前と関わる機会を創出</u> ねぶた期間中に弘前に滞在し、町会や地区を基盤としたねぶた団体のまつり参加の準備や後片付けなどを手伝いながらまつりに参加し、地域住民と交流する「ねぶたコース」と、地元企業の課題に兼業として取り組む「兼業コース」を実施 ・ねぶたコース…参加者数：19名、受入団体数：6団体 ※参加者のうち1名が、令和7年中に移住予定 ・兼業コース…参加者数：3名、受入企業数：2社	令和４・５年度の参加者がねぶた事業実施後も弘前を再訪するなど、継続して弘前と関わるきっかけを創出することができました。	【ねぶたコース】 	6,996,000
		● <u>移住検討中の中高齢者が弘前で生活をイメージするための「弘前の暮らし体験」を実施</u> 交流拠点が一体となったサービス付き高齢者向け住宅に宿泊し、弘前の文化や市民活動等を体験できるプログラムに参加してもらう「弘前の暮らし体験」（４泊５日～13泊14日）を実施 ※市独自の体験プログラムも作成 ・利用人数：12組16名	高齢者向け住宅での暮らしや当市での生活を体験できたことにより、将来の移住や住み替えを考えるきっかけを創出することができました。	【弘前の暮らし体験（りんご収穫）】 	874,000
		● <u>関係人口創出にかかるプロモーションを実施</u> 関係人口創出にかかるWebページや、SNSの活用・広告配信等により、関係人口創出についての取組や魅力あるコンテンツをPR	Webページや様々な年齢層が活用するSNSで当市の事業等について発信したことで、事業への参加者獲得につなげることができました。		994,400
	地域をフィールドにしたひとづくり	● <u>高校生や大学生が地域社会と関わる機会を創出し、将来の地域を担う人材育成プロジェクトを実施</u> 地域の事業所に大学生を派遣し、派遣先の経営課題や地域の活性化に取り組む「まちなかキャンパスプロジェクト」の実施や、高校生が自主的に地域のことを考え、活動する機会を創出する放課後まちづくりクラブ「STEP」の運営等 ・まちなかキャンパス（インターン先でのプロジェクト実行編）…参加者数：20名、受入事業所数：延べ10社 ・まちなかキャンパス（県外大学生との合同プロジェクト編）…参加者数：13名、受入事業者数：１社 ・まちなかキャンパス（福祉施設等での健康プロジェクト編）…参加者数：２名、受入施設数：１施設 ・STEP…修了者数：19名	市内の高校生・大学生が地域社会と関わり、地域志向の考え方を養う機会を創出することができたほか、地元事業所等の経営課題解決や地域活性化の一助となりました。	【放課後まちづくりクラブ（STEP）】 	7,987,100
	首都圏における若者コミュニティづくり	● <u>首都圏在住の弘前圏域出身の若者が集まるネットワークの構築や、首都圏在住学生を対象としたインターンシップを実施</u> ひろさき移住サポートセンター東京事務所において、将来的なＵターン者及び関係人口の増加を図るため、首都圏在住の若者が集まりつながる機会となる「ひろさきコミュニティ・ラボ」を定期的開催するほか、首都圏在住学生を対象としたインターンシップを実施 ・コミュニティ・ラボ参加者数…定期開催20名、大規模開催35名 ・インターンシップ参加者数…８名	首都圏在住の若者が弘前に関心を持ち続けるための交流の機会や、首都圏に居ながら弘前に関する仕事の体験機会を創出することができました。	【コミュニティ・ラボ】 	1,363,225

事業概要、 決算額、成果 【R6年度分】	交流・活躍の場の創出	●多様な人材が特技や経験等を生かし地域に還元できる活躍の機会の提供や、交流の機会を創出 ・セミナー等の講師経験が少ない人の「地域デビュー」を支援するイベントや、セミナーの開催等 （実施回数：18回、参加者数：延べ368名） ・地域資源を活用し、弘前の良さを再認識するワークショップの開催 （実施回数：9回、参加者数：延べ133名 ※成人のみ） ・子育て世代をはじめとした多世代が交流でき、特技などを生かしながらワークショップ等の出張が可能な イベントを開催（実施回数：7回、参加者数：延べ143名 ※成人のみ） ・3事業者によるコラボイベントの開催 参加者数：約150名					市内でこれまでの自身の経験や スキル等を活かして活躍できる機 会や多世代が交流する機会を創出 することができました。	【交流・活躍の場づくり のためのイベント】 	5,168,020			
		合計： 23,382,745円										
重要業績評価 指標（KPI）の 推移	重要業績評価指標(KPI)の推移							事業効果	地方創生に相当程度効果があった ※「非常に効果的であった」、「相当程度効果があった」、「効果があった」、「効果がなかった」の 中から一つを選択。			
									今後の 方向性	【総括的な成果】 指標①については、当市施策を活用した移住者数が、集計開始以降、2番目に多く、目標値を大きく上 回りました。 指標②については、当市や当市のコンテンツに関心を持ち、当市へ滞在した県外在住者が昨年度並み におり、事業実施後に弘前へ再訪したり、当市の魅力を発信する参加者が多数出てくるなど、関係人口の 創出について相当程度の効果がありました。 指標③については、首都圏でのコミュニティづくり等への参加が想定よりも少なく、目標値を下回りました が、参加者の中からまちづくり活動を継続する学生が出てきたり、インターン参加者からリターン者（市職員 として採用）が出てくるなど、一定の効果が見られました。 指標④については、地域で活躍できる機会や、多世代が交流できる機会をセミナーやイベントとして創出 することができ、参加者数は目標を上回りました。また、事業を実施することに、このような機会に自身の経 験やスキル等を地域で活かしたいという市民が増加しました。 【今後の方針（R7年度の取組内容を含む）】 関係人口の創出については、ねぶた以外の地域資源をPRすることで関係人口のすそ野を広げていくた め、地域資源の魅力を伝えるPR媒体を作成し、県外での魅力発信イベントや市内での体験イベントなどを 開催します。 地域をフィールドにしたひとづくりについては、大学生を対象としたまちなかキャンパスプロジェクトや高校 生を対象とした放課後まちづくりクラブ「STEP」を引き続き実施するほか、高校・大学時代に地域活動に関 わった人や企業等を含む地域人材を育成するサポート組織の運営を開始します。 若者のコミュニティづくりについては、インターンシップや継続的なコミュニティ・ラボの開催を引き続き行 いながら、若者同士のネットワーク構築等を目指します。 交流・活躍の場創出については令和6年度で終了しましたが、これまでに培われたノウハウと人脈を活用 しながら、関係人口の創出のために実施する地域資源の体験イベントを実施していきます。 引き続き、事業者間や、事業者と地元企業・大学・市民団体等との連携を深めていくことで、事業の効果 を高めていけるよう、情報共有しながら事業を推進していきます。		
	指標		R4	R5	R6	R7	R8	累計				
	指標①	弘前市への移住者数(人)	目標	60	65	70	65	70		330		
			実績	41	124	107 ※暫定				272 ※暫定		
	指標②	弘前版全世代・全員活躍型 「生涯活躍のまち推進事業」 関係人口創出事業への参 加者数(人)	目標	25	35	45	100	300		505		
			実績	31	38	38				107		
	指標③	地域をフィールドにしたひとづ くり参加者数及び首都圏に おける若者コミュニティづくり 参加者数(人)	目標	170	230	275	150	175		1,000		
			実績	169	139	117				425		
	指標④	弘前版全世代・全員活躍型 「生涯活躍のまち推進事業」 交流・活躍の場創出事業参 加者数(人)	目標	300	350	400	60	200	1,310			
		実績	748	989	794			2,531				